

Google フォームと zoom を用いた日仏学生交流の試み

西部由里子（慶應義塾大学）

根来良江（ラ・トゥール中学高等学校、パリ政治学院）

後藤由美（ESCE ビジネススクール、フランス国立東洋言語文化学院）

1. はじめに

2020年春、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日本でもフランスでも緊急事態宣言が発令され、多くの大学のキャンパスが閉鎖された。発表者が勤務する中高・大学でもオンライン授業が導入され、試行錯誤を繰り返すなかで瞬く間に春学期が終了した。

オンライン授業には利点もあるが、特にオンデマンド形式の場合、与えられた課題をこなすだけの受動的な学習に陥る可能性も否めない。また平時であれば、長期休暇中の海外旅行や、近い将来の留学計画がモチベーション向上につながることも多いが、現在はこのような目標を立てづらい状況にある。一方、コロナ禍によりインターネット環境は劇的に変化し、自宅から国内外のオンラインイベントに参加したり、自ら集会を主催することも容易にできるようになった。

そこで、日本とフランスの学生をインターネットでつなぎ、質問し合ったり自国の現状を報告し合ったりすることで、お互いの国を少しでも身近に感じる契機を作りたいと考え、秋学期の授業のプラスアルファのような形で交流活動を試みた。本発表はその実践報告である。

2. 実践の概要

1) 準備

- ・夏休み：交流の相手校打診、専任教員への相談
- ・夏休み明け：学生に交流計画があることを伝達
- ・10月：発表者（3名）で交流方法について複数回の zoom ミーティング

2) オンラインアンケート（全員参加）

- ・Google フォームを使用：回答や集計が容易
- ・使用言語：質問は日仏併記、学生は自国語で回答
- ・アンケートの分量：各クラス 10～15 程度の質問（選択式と記述式）を用意
- ・実施時期：フランスの Toussaint（万聖節）休暇明けの 11 月下旬
- ・アンケート結果のフィードバック：12 月の授業内で回答を紹介
- ・ふりかえり：同年代の学生の生の声を紹介することができ、学生の反応も良好

3) オンライン交流会（希望者のみ参加）

- ・zoom を使用：学生にとって使い慣れたツールであり、リアルタイムでの会話実践が可能
- ・実施時期：第 1 回は 12 月下旬に 3 日程、第 2 回は 1 月下旬～2 月上旬に 3 日程
- ・参加者：各回 15 名程度の学生（日仏）＋教員（2 名）
- ・プログラム：1 人 1 分のミニスピーチ（2 か国語）とブレイクアウトルームでのおしゃべりタイム
- ・ふりかえり：学んでいる外国語でコミュニケーションができたという達成感と学習意欲の高まり

3. 今後に向けて

コロナ禍によって「できない」ことだらけとなった学生に、コロナ禍だからこそ「できた」と感じられるような経験をしてもらいたい、という思いで今回の交流は企画された。アンケートの感想には相手国の思わぬ一面を発見した驚きや、最新の情報に興味を広がったなどの声が寄せられた。またオンライン交流会の参加者からは、会の終了後もインスタグラムなどでつながり勉強を教え合っているというような嬉しい報告も届いている。

交流活動の継続には、日仏の学事日程の違いや時差、そして平時における大学生の多忙さなど、克服すべき課題もあるが、学生交流を深めていくことができる方法を今後も探していきたい。